

2021年度

事務局だより

N012 (通算 NO. 20)

2021.11.20

一般社団法人

示現会



- 日展始まる
- 巡回展報告

裏面 ○＜特集＞ 日展報告

非常事態宣言が解除されました。コロナの感染者が異常な数で減少しています。嬉しい状況ではありますが、あまりにも極端な減少傾向は少し不安でもあります。上手くこのまま落ち着いてくれると良いのですが。
さて、日展が開催されました。うれしい初入選、3名の方の言葉を裏面に載せました。



日展始まる！

第8回 日展が国立新美術館で開催されました。示現会からも、初入選3名を含め32名、そして審査員を務めた井上 武(示現会事務責任者・日展特別会員)はじめ、成田禎介(特別会員)、中川澄子、佐藤祐治、錦織重治、大淵繁樹(以上日展会員)の作品が展示されました。
残念ながらコロナ禍の状況ということもあり、示現会として例年開催しております「自祝会」は今回も実施いたしませんでした。
会場にお出かけの際は交通機関、宿泊、飲食などに十分注意を払いましょう。また、美術館ではマスクの装着等、鑑賞のための注意事項がありますのでお気を付けください。
裏面には特集として今年度審査員の井上武常務理事の「日展について」と初入選のことば、日展会員の方々の作品解説を載せてあります。

巡回展報告

京都展



京都表彰式 ソーシャルディスタンスをとって



集合写真もマスクをつけて

コロナ禍への安全対策を徹底することにより、文化芸術は不要不急の対象ではなく、むしろ社会全体が不安を抱えている今だからこそ、心穏やかに鑑賞して頂けたらとの想いで開催させていただきました。やはり思った以上に好評で出品作家の皆さんに 唯々感謝です。

京都支部は、これまですべての展覧会を開催した事で、部員の減少もなく、体調の優れない支部員まで進んで出品したり、前向きの人が多く感心させられます。但し、支部公募展に関しては年々高齢化による減少傾向があり今後の課題でもあります。会期中、毎日会場にいて感じたことは、支部員夫々が安全対策は勿論の事、当番日以外でも会場に来て、鑑賞者に対応したり、受付の代行をしたりと心配りされていることを目の当たりにして感動しました。

この過酷な状況下だからこそ、思い遣りの心の繋がりが強まり、マイナス面だけでない事に気がつかされ、いろいろな意味で心に響く展覧会でした。

京都支部長 荒井まき子

2022年度の1月、2月はリモート研究会で行います

2021年度の研究会

参加者数

1月17日	47名
2月14日	116名
6月 6日	69名
7月 8日	68名
8月15日	65名
9月19日	117名
＊ 合計	482名

今年度の研究会は全てリモート研究会となりました。

1月、2月は第74回示現会展に向けての研究会。そして、6月、7月、8月、9月は日展、奨励展に向けての研究会と位置付けての開催でした。

勿論、全ての研究会はどこに出品ということでもなく日ごろ制作している作品も大歓迎で、多くの方々から参加できてよかったという声をいただきました。

21年度は、6回実施、500名近い方が参加しました。

コロナ禍という状況が続きましたが、講師の先生方、また資料づくり、撮影等どうしても必要な最小限の係の方の尽力で研究会が実施出来ました。

今の状況を鑑み、1月、2月はリモートで行います。75周年記念展に向けての作品が主な対象になります。ぜひ多くの方々の参加をお待ちします。

1月の研究会	1月16日	締め切り	1月10日(月)
2月の研究会	2月20日	締め切り	2月14日(月)

必着

研究会案内

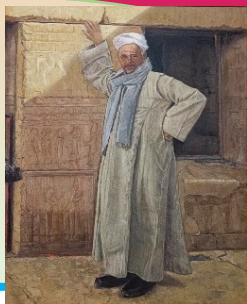
特集1



石井則子 「バイオリンを奏でるあかり」

モデルの「あかり」さんはバイオリン奏者です。私にとって描きたい、モデル、モチーフとの巡り会いであった。この作品は、青をテーマに目には見えない、世界が加わることで、よりドラマ性が生まれた。バックには幾重にも色を重ね、下地の色(ウルトラマリン)をわずかに浮かび上がらせる工夫をし、この絵から「バイオリンの音色が静かに聴こえてくるような錯覚を覚える」と、そんなことを目指して描きました。ご指導いただきました先生たちに深く感謝申し上げます。

日展報告



助川和彦 「ホトハル神殿の番人」

大淵繁樹先生のご指導の元「絵で表現することはどういう事か？」基本から教えていただいています。なるほど！、なるほど！の連続です。続ける中で少しずつ前進できているのかな、と実感できるのは実に嬉しいことです。本年の示現会展で佳作賞をいただき、これをきっかけに思い切って、日展に初出品したところ本人もびっくりの入選。大淵先生はじめ、リモート研究会での具体的なわかりやすい指摘をくださった先生方に心から感謝申し上げます。



大野新一 「田代島の猫たち」

長年の目標だった日展に、11回目で入選することが出来、とても嬉しいです。10年前に、初めて日展に出品した時、会の研究会でバックは日展級だが、人物は良くないで消しなさい、と言われてました。人物を消したら、何も残らないとそのまま出品したが、やっぱり落ちました。思えば、あの時の指摘は的確だったんだ、と思いました。絵は難しいですが、精進を重ね、2回、3回と入選できるよう頑張りたいと思います。

今回の日展で示現会からの初入選は3名でした。残念なのは、昨年初入選された方が、今回は一人も入選できなかったことです。力がありながら落選となった方々の奮起を期待します。

この事務局だよりが、皆さんの手元に届くころ、今年の日展の結果が出ています。入選数の面から言うと、決して満足いく結果とは言えません。しかしそれでも、実力で入選を勝ち取った人が三二名もいるという事は素晴らしいことです。ご存知のように、日展系と称される公募団体は7団体あります。光風、白目、東光、日洋、一水、創元そして示現会です。各団体から審査員が集められ一九名で審査します。各会派の審査員数も一名から四名とばらつきがあります。各会派の絵の傾向もまちまちです。そういう中で入選をした作品は、傾向の違う他会派の審査員の賛同を得たのです。素晴らしいことです。ということは、会派を超えた普遍的なもの、何か人をひきつける要素があったのでしょう。モチーフの斬新性、確りした描画技術・デ

日展について 第8回日展審査員 井上 武

ツサン力、構成力、魅力的な色感、そして何より作者の熱が伝わってきたか、これが一番でしょう。モチーフに向かいスケッチをし、最後にキャンバスに下絵を移すまでに何枚も何枚も、紙に鉛筆(素材は問いません)でデッサンをしているでしょうか。モチーフの選択、構成・構図の検討、色彩の選択等々、紙が真っ黒になるまでデッサンを繰り返しているのでしょうか。その過程に慣れはありませんか。いつも、初めてそのモチーフに向かう気持ちで、ハラハラドキドキ感がありましたか。あった人は入選、慣れで描いた人はどうだったでしょうか。そのハラハラ感は審査の時に伝わってくるものです。会の研究会も、そのハラハラ感を教示することはできません。それは皆さん各自の絵に対する熱情ですから。

岐阜新聞で、岐阜支部の内木さんの記事がありました。紹介します。

西洋画に日本的な対象



11月9日から12日まで、みんなの森きふメディアコ・スモス(岐阜市司町)で第74回示現会展岐阜展を開催します。全国の示現会会員約850人のうち、本部会員と岐阜支部会員の油彩画や水彩画の大作87点を展示します。令和4年度は会場を県美術館に戻して連休中



示現会岐阜支部会員・内木健二

示現会展岐阜展に寄せて

メディコスで9日から

このことについて描いています。コロナ流行前は、明治座に年間2万人以上の人が見学に来ていました。名物館長は中村七之助さん。父上の故中村勘三郎さんは生前「地歌舞伎には本歌舞伎で失われてしまったものが残っている」と言われ、明治座での公演もありました。

私は常々「洋画で最も日本的なものを描きたい」と思っていました。それもあり、この5年ほどは「地歌舞伎と並行して古事記」の世界をテーマに、ペニヤ板二十数枚に具象と抽象の世界を描いています。古事記の世界は私にとって最も難しいテーマです。古事記の半分は神話の世界で、世界を揺るがすほどの出来事や大津波、山や海を連想させます。古事記の世界を描き終わるにはあと少ししかありません。

スメホやパソコンで検索して見られるよう岐阜支部全会員の過去作品を掲載した「示現会岐阜支部のホームページ」が作成されています。また、東大寺から吉野まで歩いて描いた約1000ページの画文集「内木健二の和の四季」もあります。

「地歌舞伎・楽屋」

研究所案内

アトリエを利用したの絵画教室はコロナ対策を取りながら開催いたします。大作教室を含め各教室の開催状況は研究所までお問い合わせください。

03-03-3824-9128

NO.10で示現会会館の紹介をしましたが、事務室の受付時間が間違っていました。お詫びして訂正します。

水曜・木曜定休日
開館時間
9:30~18:00

